

2017年3月期 決算説明会 質疑応答概要

2017年3月期 業績について

Q 1. 工作機械事業は、通期業績予想（2016年8月10日修正）に対して、売上高は上振れましたが、セグメント利益が若干の未達になりました。要因について教えてください。

A 1. 放電加工機の販売台数が計画を上回ったこと、想定為替レートに比べ円安に推移したこと等もあり、売上高については業績予想を上回りましたが、人件費等販管費が計画に比べ増加したことによりセグメント利益については若干の未達となりました。

(百万円)

| | 2017年3月期 実績 | 2017年3月期 通期予想 | 差 |
|-----------------|----------------|------------------|-------|
| 売上高 | 43,355 | 42,320 | 1,035 |
| セグメント利益（工作機械事業） | 6,213 | 6,240 | -27 |

Q2. 為替の感応度についてご教示ください。

A 2. 2017年3月期は、為替レートが前期に比べ円高に推移した結果、外貨建て売上高は約48億円目減り致しました。

(内訳：北南米で△約7億円、欧州△約6億円、中華圏△約29億円、アジア△約5億円)

※地域別売上高につきましては、決算説明資料 P10をご参照下さい。

営業利益については、主力製品である放電加工機は9割以上（台数ベース）を海外で生産しており、海外売上高比率も6割を超えています。為替の影響は収益と費用の相殺効果があり、営業利益の額には大きな変動が生じない体制となっております。

■ 足元の受注状況について

Q 3. 放電加工機の受注が足元では好調に推移していますが、受注の業種別内訳について教えてください。自動車向け、スマートフォン向け、どちらの影響が大きいですか？

A 3. 自動車・スマートフォン関連ともに受注は好調です。自動車関連は非常に活況な受注が続いています。スマートフォン関連は一時期低迷していましたが、足元では中国のローカルスマートフォンメーカーの増産に伴う設備投資が目立っており、当社の放電加工機の需要も増加しています。

Q 4. 射出成形機の受注が好調な要因について教えてください。

2017年12月期 産業機械事業は増収を計画していますが、どの分野が伸びる見通しですか？

A 4. 2017年3月期は、スマートフォンのレンズ向けや、車載用コネクタやスマートフォンに組み込まれる電子部品の防水処理向けにシリコンの成形機など、高付加価値部品向けの射出成形機の受注が好調に推移しました。

足元でも好調な受注は継続しており、2017年12月期はスマートフォン関連、車載関連、電子部品関連向けを中心に販売台数増加を見込んでおります。

Q 5. 射出成形機の受注が非常に好調ということですが、御社の生産能力はどのくらいでしょうか？

A 5. 従来は加賀工場を中心に生産を行っておりましたが、足元での高水準の受注状況を踏まえ、加賀工場の生産能力増強に加え、タイ工場での増産体制を整えています。生産能力増強により、年間1,500台程度の生産が可能となる予定です（加賀工場 月80台程度、タイ工場 月50台程度）。

業績予想・中期計画について

Q6. 2017年12月期通期業績予想について、工作機械事業の売上高の国内外比率を教えてください

A6. 国内が3割強、海外が7割弱を見込んでおります。

Q7. 2018年12月期は、2017年12月期（2017年1-12月換算）に比べ、売上高は30億円程度の増収を計画していますが、営業利益は1億円の微増となっています。利益が伸び悩む要因について教えてください。

A7. 研究開発費の増加、生産能力拡大に伴う販管費増加などにより、営業利益については微増となる見込みです。

金属3Dプリンタについて

Q8. 2019年12月期の販売台数目標について教えてください。

A8. 2019年12月期の計画に含まれる販売台数は66台としています。

当社の金属3Dプリンタは加工面の面質と形状の精度が非常に良い点が特徴であり、高い精度が求められる金型をメインのターゲットに販売台数の増加を見込んでおります。

将来的には製品の大型化、加工速度の高速化、対応できる金属粉のラインナップ拡充に取り組み、次世代自動車や航空機エンジン部品など、部品加工分野まで裾野を広げていきたいと考えています。

Q9. 金属3Dプリンタ事業の採算性は？

A9. 金属3Dプリンタの販売台数はまだ少ないため、放電加工機などの他工作機械製品に比べて採算性は低い状況にありますが、研究開発費を除いた粗利ベースでは適正な利益を確保しています。今後は、販売台数増加、量産効果によるコストダウンを進めるほか、主要部材の内製化を進め、採算性の改善を図ってまいります。